多摩ニュータウン南大沢 40 年 CI プロジェクトと
高齢者と子どもたちのエンパワーメント支援

炭谷　晃男　教授
（社会情報学部　社会情報学科　情報デザイン専攻）

1 概要

多摩ニュータウンの西部地域の拠点となる南大沢まちづくり再生プロジェクトに協力しながら、住民の方のエンパワーメントを支援するプロジェクトに取り組んだ。前年 2023 年度はボッチャを通じて、地域の元気づくりと共生社会の実現をめざす「ボッチャ南大沢カップ 2023」を実施した。2024 年度は、前年実施したボッチャの大会を改善して競技としてのホッチャから共生・協力のボッチャ交流にシフトして実施した。さらに、子どもプロジェクトとしての寺子屋活動は月に 1 回程度、八王子市内の小学校施設を借用して小学生のためのサタデースクールを実施するもので継続的に実施した。高齢者プロジェクトとしての高齢者サロン活動にも継続的支援に取り組んだ。

2 プロジェクト

a. ボッチャ南大沢交流カッププロジェクト

八王子市南大沢は多摩ニュータウンにおける西部地区の中心的地区となっている。当該地区で活動している市民団体である「南大沢コミュニティネットワーク」との協働事業として、ボッチャを通じて地元南大沢の元気づくりと共生社会の実現に貢献しようと実施しました。

実施日　　2 月 23 日（日）12 時 55 分から
会場　　東京都立南大沢学園体育館
参加団体　炭谷ゼミはじめ 12 チーム



今年改善した第 1 は、ボッチャ南大沢カップは勝敗を競う単なる競技会とせず、共生社会につながる交流の場とすること。そのため勝ち抜き戦のトーナメントではなくて、総当たりのリーグ戦とした。そして昨年できなかった、各チームから 1 名ずつ選抜された人たちによる「ごちゃまぜ試合」を実施することができました。これは、私たちの大会理念を象徴したプログラムになり、昨年実施できなかったものが今年度実施することができ、大変感動したものとなりました。第 2 に、お互いが交流できる仕掛けと情報提供。お互いが交流してもらうために、AerudeCafe さんにコーヒーの無料提供をしていただきました。そして社会福祉法人由木かたくりの会にはクッキーの販売をお願いしました。社協のはちまるサポート由木・由木東さんには、輪投げと健康情報の提供をしていただきました。このようなことを通じて、ボッチャという競技を通じてつながる大会となることができました。第 3 に、1 月 8 日に寺子屋の時間をお借りして大会参加団体やボランティアの方々にお集まりいただき、大会の趣旨及び進行手順についての説明会を開催しました。文書をお送りするだけでは伝わらない点も、対面でしっかりお伝えすることができて、当日の進行スムーズになったと考えます。



写真　開会式



写真　優勝チーム　ほんふわ CLUB

小学生のグループ、大学生のグループ、障がい者グループ、高齢者サロングループと多様な人々が、互角にプレイできるのもボッチャの特徴であることを強く再認識させられた。

昨年度好評だった「出前ボッチャ体験」を 10 ヶ所訪問するアウトリーチ活動を実施した。なかには、多摩市立瓜生小、多摩第三小、東寺方小にボッチャ教室の出前を行った。ボッチャを体験したことがない初心者から、大会に出るほどは練習していないなど、大会参加潜在層の掘り起こしにも一役買っている。この出前ボッチャの果たす役割は小さくはないと考えます。出前ボッチャを通じて、広くボッチャを体験してもらい、またプレイを継続していく仕組みづくりを通じて、ボッチャが普及していくものと思われます。さらに、参加して頂いた皆さんとつながりを持ち、今後のつながり活動について、皆さんから要望を伺い、この企画を発展させていきたいと考えます。大会の報告書を作成しましたのでこちらを参照頂きたい。

b. 子どもの居場所プロジェクト：寺子屋

大妻多摩キャンバス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に 1 回程度土曜に学校の教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋活動を実施している。寺子屋の活動内容としては寺子屋学習教室（漢字検定）、ボッチャ、プログラミングカー、万華鏡教室を実施した。ペットボトルロケットにより SDGs の学びにつなげた。この寺子屋でもボッチャ教室を行い、はじめてボッチャをする方々への体験会を実施した。また、3 月には寺子屋の締めくくりとして「竹たま里山まつり」を堀之内寺沢里山公園で実施した。

c. 高齢者の居場所づくり：高齢者サロン

ボッチャは、老若男女誰でも、障害の有無を超えて楽しめるユニバーサルスポーツとしてボッチャがオリンピックのレガシーとして定着してほしいと願ってこれまで取り組んできた。高齢者サロンで障害者と高齢者が一緒になってプレイを楽しむことができた。何気ない風景だが感動を覚えます。ただ、高齢者スマホ教室ができなかったのは残念だった。来年度は高齢者のデジタルディバイドに向けた活動を行う予定です。



写真　　出前ボッチャ体験

3 結び

以上のように、今年度の活動としてはボッチャ南大沢カップ 2024 が中心となったが、こどもプロジェクトとしてもボッチャ教室を実施した。高齢者プロジェクトでも、各サロンにおじゃましてボッチャ体験を実施させていただいた。その意味で、私たちの 2024 年度の活動はボッチャが世代や団体を横つなぎしていた。さらに、学生達にこのような地域社会で、他の団体とのコラボレーションを通じて、子どもや大人にかかわる機会を与えて頂いた「大妻女子大学地域連携プロジェクト」に感謝申し上げる。今後も、地域連携プロジェクトを通じて、学生や教職員が地域団体と交流し、連携の輪が広がっていくことを期待しています。